

東京都の次世代自動車 に関する取組

東京都環境局 自動車公害対策部
計画課 計画係長 折原 岳朗

東京都の自動車環境施策

●大気環境改善対策

◇ディーゼル車規制の開始(埼玉、千葉、神奈川県と共同)
(2003年10月)

◇都の要請を受け、石油連盟各社が低硫黄軽油を早期供給
(2003年4月)

●地球温暖化対策

◇東京都環境基本計画に、温室効果ガスを運輸部門で
2020年までに2000年比40%排出削減の目標を明記
(2008年3月)

→低公害・低燃費車、次世代車の普及など

EV、FCVについては、自動車単体からの公害物質、温室効果ガスの排出がゼロのため、早くから大きな期待を寄せていた。

庁有車に電気自動車を試験導入(1988年～)

- 電気自動車の普及に向けて、まず都の庁有車に試験導入(1988年より)

◇電気自動車の開発が進み、ガソリン車などに相当程度代替する輸送手段になりうるという、当時の予測にもとづき先ず、庁有車に試験導入し使い勝手等を検証した。



【結果】

車としての性能の完成度が低かったため、芳しい結果は得られなかった。

⇒結局、当時は普及しなかった。

※当時の電気自動車の庁有車は、現存しない。

FCバス・水素ステーションパイロット事業

●FC都バス パイロット事業

- ◇日本初のFCバス路線営業走行
- ◇期間:2003年8月～2004年12月
- ◇トヨタ自動車・日野自動車との共同事業

●有明水素ステーション パイロット事業

- ◇東京都の港湾用地を活用
- ◇ステーション事業者を公募:昭和シェル石油、岩谷産業
- ◇2003年6月開所 →2010年4月に近隣地へ移設し、現在も稼働中



東京都EV・pHV普及促進プロジェクト

●ムーブメントづくりのための取組

・2009年5月より開始

・事業者と連携した普及活動

次世代自動車の導入に取組む事業者と連携し、利用状況、充電設備設置状況、駐車場割引などのインセンティブなどについて広く情報発信

・試乗会の実施

●普及促進に向けた支援の実施

・車両の導入促進

次世代自動車の導入補助、自動車税・取得税の免除

・走行環境の整備

急速充電器の導入補助

5年で、EV・pHV 15,000台、急速充電器 80基を目指す

EV・pHV購入補助概要(2013年度版)

●補助対象者

- ・中小企業、個人事業者
- ・新車への買換え

●補助額

- ・クリーンエネルギー自動車等導入促進補助金の
交付額の1/2

●補助予定台数

- ・EV 250台、PHV 320台

↓ 詳しくはwebで ↓

<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/vehicle/sgw/promotion/electric.html>

急速充電器整備補助概要(2011年度版)

●補助対象者

- ・企業、個人事業者

●補助額

- ・本体価格から国補助額を除いた1／2

2011年度にて事業終了

⇒ 都内目標設置基数 80基を達成したため
(現在、都内の急速充電器設置箇所数 117箇所)

次世代自動車導入促進税制

●税制優遇対象車

・EV、PHV

●内容

【国の制度】

自動車取得税

	電気自動車	プラグイン ハイブリッド自動車
新車	非課税	非課税
中古車	45万円控除	45万円控除

自動車税

電気自動車

… 新車新規登録の翌年度概ね 50%軽減

プラグインハイブリッド自動車

… 新車新規登録の翌年度概ね 50%軽減

※ 電気自動車は燃料電池自動車を含む。

【都の制度】

自動車取得税

		電気自動車	プラグイン ハイブリッド自動車
新車		非課税	非課税
中古車	21～25 年度 新車新規登録	課税免除	課税免除
	20 年度以前 新車新規登録	45万円控除	45万円控除

自動車税

電気自動車

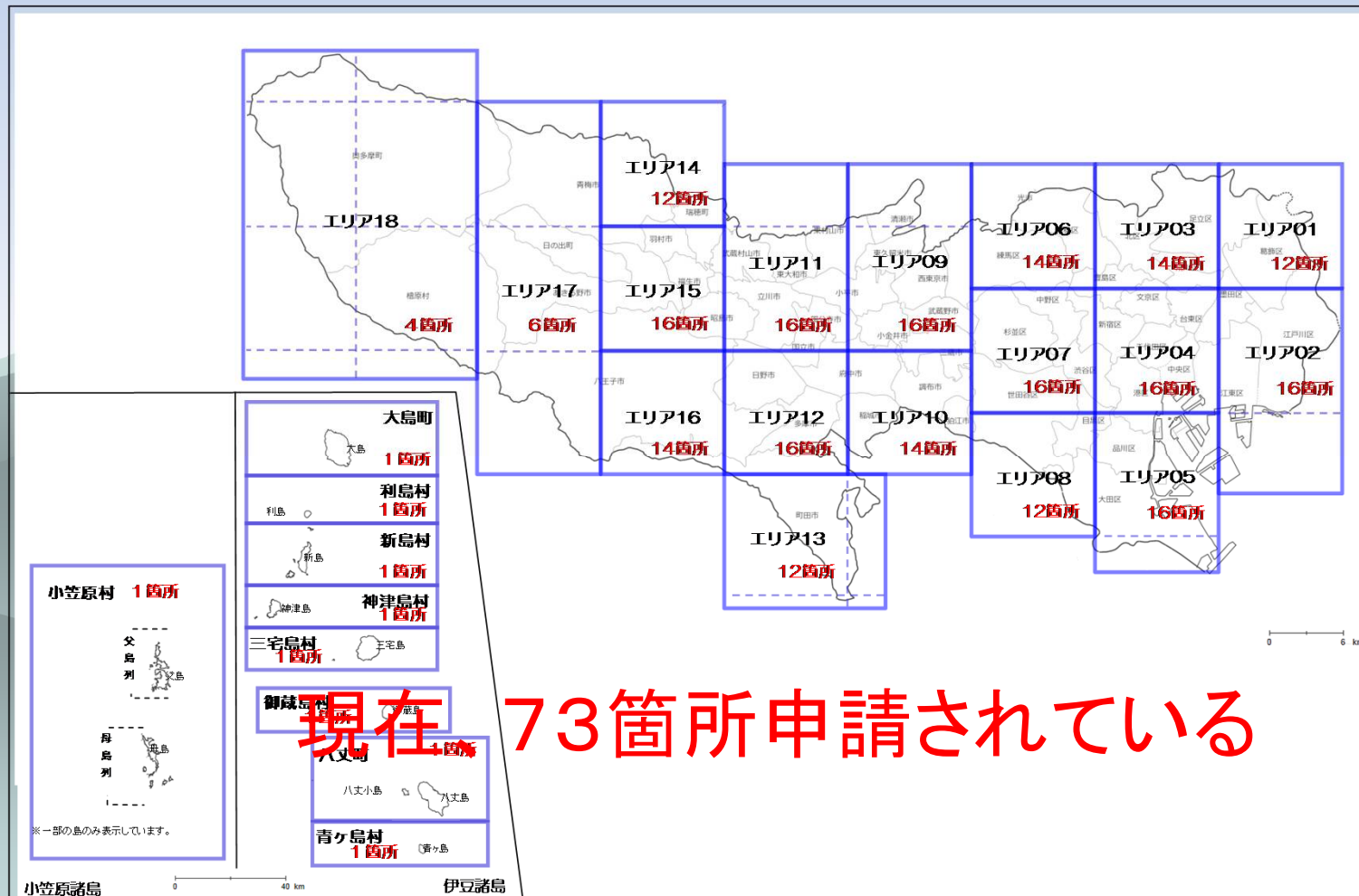
… 新車新規登録時の月割分及び翌年度からの5 年度分を課税免除

プラグインハイブリッド自動車

… 新車新規登録時の月割分及び翌年度からの5 年度分を課税免除

次世代自動車充電インフラ整備促進事業 東京都ビジョン(2013年)

●設置箇所枠 251箇所



EVカーシェアリング モデル事業

●コンセプト

- ・EVならではの新しい使い方を提案するため
都と都民とのカーシェアリングとして
平日昼間は都が業務利用、
業務時間外は一般都民が利用

●期間・実施場所

2010年11月～2011年3月
都立川合同庁舎
(オリックス自動車と共同実施)

その後、EVカーシェアリング事業は
一般的に普及していった



庁有車へ電気自動車導入を再開



● 環境局庁有車
(2009年度に導入)

● 下水道局庁有車
(2011年度に導入)

EVタクシー実用性実証走行試験事業

●期間・実施場所

2011年10月～2012年2月

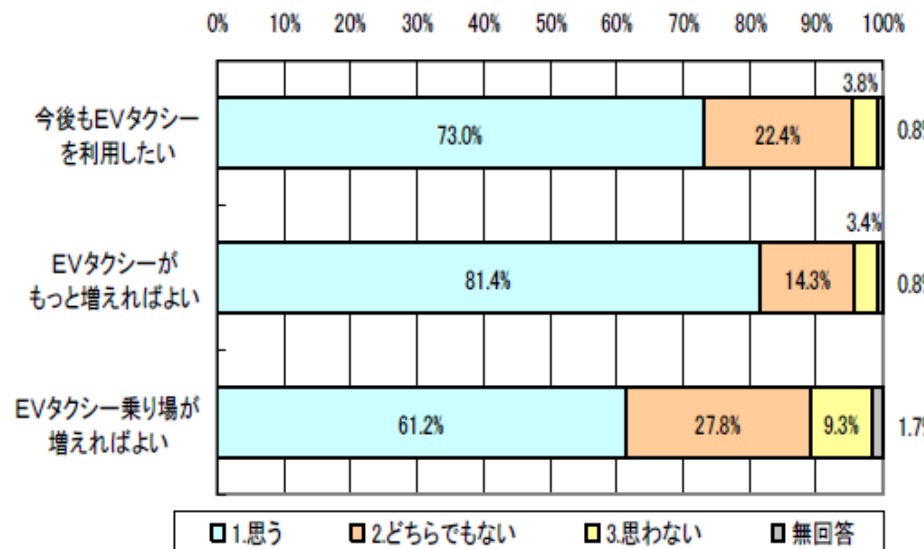
新丸の内ビル前タクシー乗り場

EVタクシー 18台参加

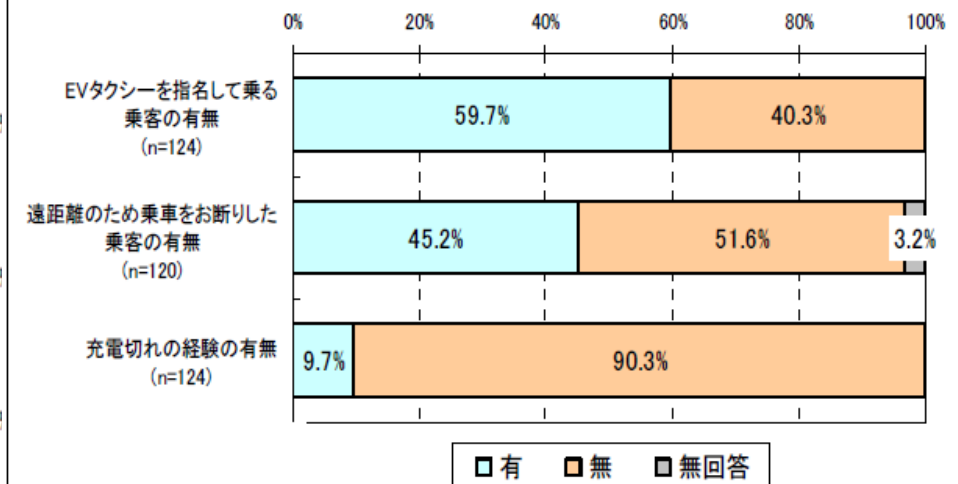
●結果



乗客アンケート主な結果 (n=237)



乗務員アンケート主な結果



乗務員は、EVの航続距離への要望が多かった

IPS(非接触給電電気)バスの実証運行

●都バス 都05系統(東京駅～晴海ふ頭)

◇期間:2011年1月～2011年2月

●東京モーターショー送迎用(ビッグサイト～豊洲駅)

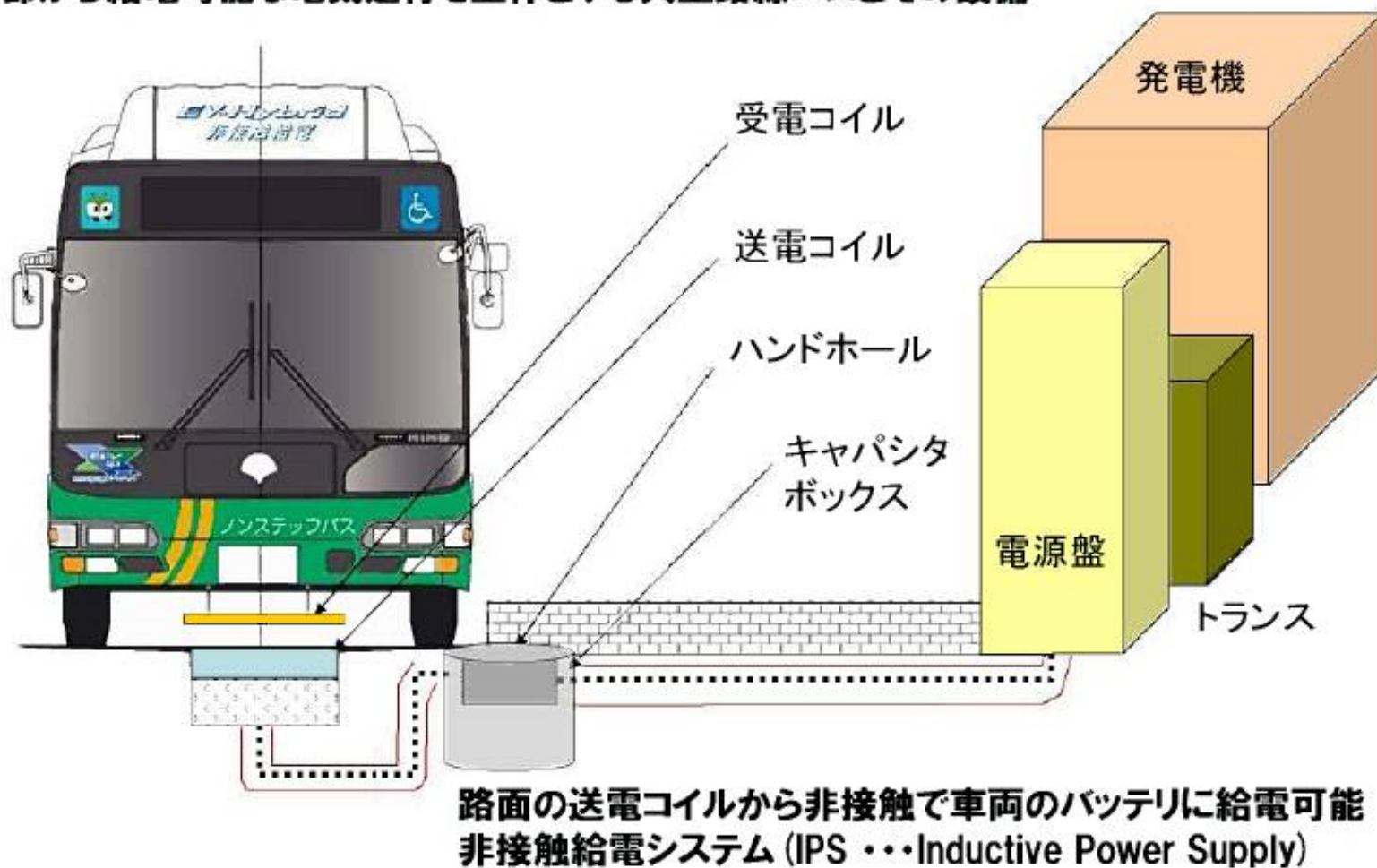
◇期間:2011年12月



IPS(非接触給電電気)バスの実証運行

<システム構成>

外部から給電可能な電気走行を主体とする大型路線バスとその設備



EVコミュニティバスの運行(墨田区・羽村市)

●墨田区

- ◇2012年3月～ (愛称: すみりんちゃん)
- ◇東京スカイツリーを中心したルートで運行

●羽村市

- ◇2012年3月～ (愛称: でんきバスはむらん)
- ◇羽村駅～市役所～小作駅のルートで運行



東京ゲートブリッジ開通式典(次世代車パレード)

◇2012年2月12日

◇東京の新名所となるゲートブリッジの開通式典に、都民に末永く愛顧される期待を込め、次世代車のパレードを実施

・EV、FCV、IPSバスも、次世代車の一員として出走

◇都知事(当日は代理出席の副知事)、国土交通大臣など、数多くの来賓が乗車する車両として、パレードの中心的役割



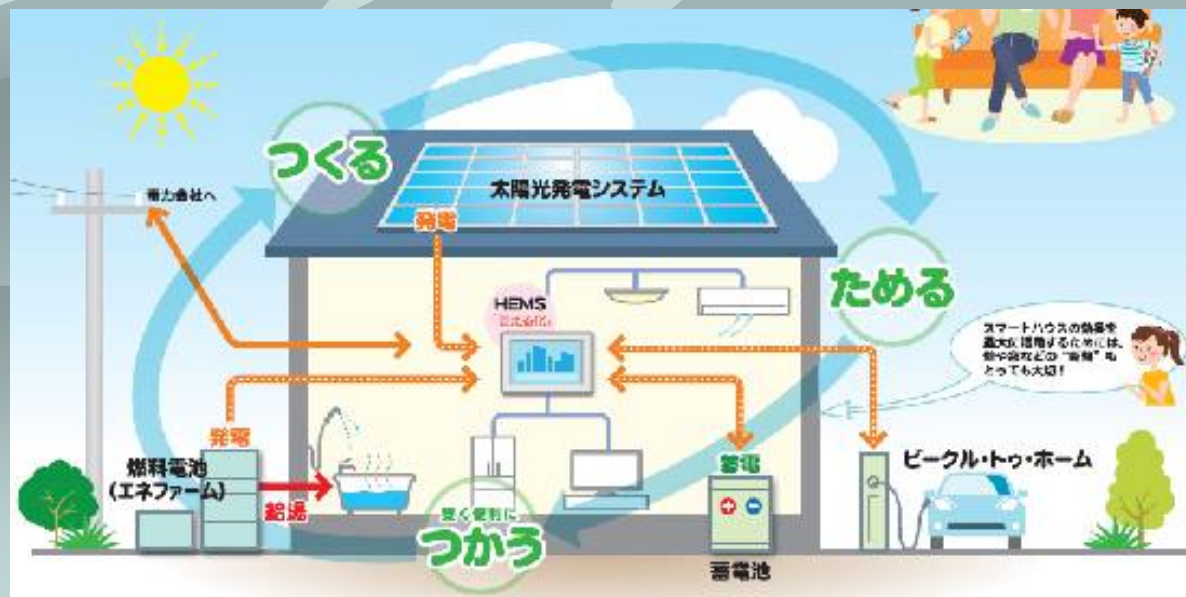
ビークル・トゥ・ホームシステム補助(2013年～)

●コンセプト

スマートエネルギー都市の推進に向けたEVの新たな活用方法の支援

●補助額

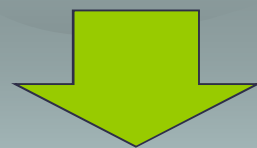
- ・V2H 10万円
- ・V2H+EV 25万円



2020年 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

●五輪招致 申請ファイル・立候補ファイル

- ・大会関係車両に電気・燃料電池自動車やハイブリッド車を活用するとともに、観客が鉄道やバス等の公共交通機関を利用する
- ・大会関係車両には、全て、電気・燃料電池自動車やハイブリッド車などの低公害かつ低燃費な自動車を使用する。



そのためにも、次世代自動車が大量普及されている社会の構築を

次世代自動車は

- 東京都の目指す最先端の低炭素都市及び高度な防災都市を実現する上での、有効なツールとなる可能性を秘める
- 我が国の自動車社会の大きな変革をもたらすもの

2020年 オリンピック・パラリンピック東京開催決定
ご声援ありがとうございました

